

# 道連ニュース

2017年1月号 No.126

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

## 新 年 ご 挨拶



麻田 信二

新年、明けましておめでとうございます。迎えた平成29年が生協運動に集う皆様にとりまして、より良き年になりますよう、お祈り申し上げます。

また、皆様方には、常日頃から、北海道生活協同組合連合会の活動に対し、深いご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年北海道を振り返りますと、8月には、立て続けに4個の台風が来襲し、うち3個が上陸するというかつて経験したことのない気象条件に見舞われ、農業や鉄道事業に大きな被害をもたらされました。

一方、世界に目を向けてみますと、EUやトルコなどでのテロの続発や内戦が続く地域からの膨大な難民の流出、6月のイギリスの国民投票によるEU離脱の決定、11月アメリカ大統領選挙でのトランプ氏の勝利など、これまでの常識とは異なる人々の選択が示されています。

そして、国内では、7月の参議院選挙の結果、国会の改憲勢力が3分の2を超え、改憲発議が可能な状態になりました。多数を握った自民党安倍政権は、11月には憲法違反の集団的自衛権の行使を容認する安保法制関連法に基づき、駆けつけ警護の命令を出し、12月には、カジノを解禁できるようにする法律を極めて短時間の議論で強行採決を行うなど、独裁政権の姿をあらわにしてきており、戦後、平和憲法の下で国民主権の民主主義を育ててきた我が国は、極めて危なっかしい状況に陥りつつあることが心配です。

こうした社会情勢の中での北海道生協連の取り組みでしたが、会員相互の連携や調整という基本となる役割を担いながら、LPガスの北海道価格問題、経済的に恵まれない学生を支援するシェアハウス問題、高齢化社会を迎えての重要課題である福祉問題への生協の関わりなどについて取り組み、LPガスの北海道価格問題については、大きな前進がみられるなどの成果を納めることができました。

また、7年ぶりに、北海道東北行政生協連絡会議が北海道で開催され、その事務局の一端を担うとともに、

北海道生協連創立60周年記念事業の企画を進めてまいりました。

この他、台風被害を被った農家を支援するため、日本生活協同組合連合会のご協力を得て、全国の生協関係者などに義援金の呼びかけを行ったところ、約4千7百万円を寄せていただき、そのうち、3千3百万円余は、12月21日に、北海道農業協同組合中央会飛田会長に直接お届けすることが出来ました。生協活動に集う仲間のご厚意に心から感謝しているところです。

このように大きく変化する社会であり、人々の心も大きく変化しております。会員生協の皆様におかれては、それぞれの設置目的に沿って、道民福祉の向上と平和な社会の実現に向けた活動をいただいておりますが、社会情勢が混とんとして流動化する中では、軸足をしっかりと定めていく必要があります。生協法に基づく日本生協連の創立宣言「平和と、より良き生活こそ生活協同組合の理想であり」「平和無くして、より良き生活は実現できない」を原点に、農林水産業に関わる協同組合や労働金庫、社会福祉団体などの連携をとり、平和な社会を維持し、私たちのより良い生活を目指して行かなければなりません。

今年も、これまでの活動をもとに活動を重ねてまいります。北海道生協連60周年記念事業として、今年17日には、日本生活協同組合連合会の和田専務を講師に、「日本の貧困化の現状と生協運動の役割」をテーマの学習会、2月6日には、慶應義塾大学教授金子勝氏を講師に、「グローバルズの本質と暮らしへの影響」をテーマに講演会を開催するなどの行事を計画していますので、多数の皆様のご参加をお願い申し上げます。

今年がこれまで進めてきた会員生協の連携活動と友好団体との交流が一層進む年となりますよう皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

## 冬の災害への心構え、

# 冬季体験型防災イベント「ぼうさいタウン」を開催

北海道労働者共済生活協同組合(全労済北海道本部)では、11月23日(祝)に札幌市白石区の札幌コンベンションセンターにおいて、北海道で火災共済事業が開始されて60年を迎え、阪神淡路大震災・東日本大震災、熊本地震などでの大規模災害の教訓を風化させず、北海道での冬の災害に備えていくために冬季体験型防災イベント「ぼうさいタウン」～今、ここから「たすけあい」を広げよう～を開催いたしました。

基調講演では、日本赤十字北海道看護大学教授「根本 昌宏」氏が「冬の万が一を生きぬくための知識・行動」として北海道での冬の災害に備えた避難所生活での心構えや知識についての講演とともに、実際に避



協賛団体「コープさっぽろ」の協力による炊き出しの試食体験



冬季の避難所生活を模擬体験する参加者の皆さま

難所を想定したダンボールパーティション作りで参加者が避難所生活の模擬体験を行いました。

また、「一次救命処置」「ダンボールベッド体験」「煙体験テント」「消火器体験+バケツリレー」「炊き出し(試食)体験」などの各ブースを参加者が、札幌市作成の「避難所運営マニュアル」をイメージした活動グループを編成して体験いただきました。

家族での参加者も多く、「防災への意識が高まった」「避難所生活の体験で想像以上に大変であることがわかった」など、貴重な体験であったことの感想を多く寄せられ、防災への意識、知識を深めていただく中でイベントを終えることができました。

## 「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」学習会開催

11月19日 生協9条の会北海道主催、北海道生協連協賛(60創立周年記念行事第1弾)で、斉藤さん(元日生協常務理事)を招いて「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」学習会を開催しました。全労済2階会議室の椅子数を超える70名の参加者がありました。今回の企画は、斉藤さんが出版した「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」パンフレットを読んだ生協9条の会から学習会開催の協力要請をきっかけにして決まりました。北川さん(生協9条の会北海道世話人)と麻田さん(北海道生協連会長)の開会の挨拶後、斉藤さんの学習会を行いました。学習会は、パンフレットとレジメに沿って、第1部 明治期「戦前・戦中の生協の歴史」日本で初めて生協が誕生した1879年のころの状況。労働者生協の誕生、日清戦争、日露戦争、治安維持法等。大正・昭和初期の生協は元気で地域に広がりを見せた。神戸消費、灘購買、大学生協の誕生と賀川豊彦の活躍。満州事変、日中戦争、太平洋戦争が起こると治安維持法による思想的政治的弾圧(賀川豊彦も投獄)関消連、東京学消も弾圧下で解散させられる。

戦争遂行のために思想統制から組織統制への強化で生協の事業は自由を失い、お米なども扱えず解散へ向かう。

第2部「生協の平和活動の歴史」戦後、廃墟の中から食糧難、物価高の状況下、全国で6500組合が設立した。戦争体験から平和と民主主義の大切さを学び、「平和とよりよい生活のために」のスローガンを日生協創立宣言した。原水爆禁止運動の最初は、ビキニ水爆実験で「安心できる魚と海」を願う婦人組合員が立ち上がったことがスタートでした。ヒロシマ・ナガサキ大会、平和行進、被爆者援護法制定運動、国連軍縮特別総会(SSDI SSD II)等の生協の反核・平和の活動を市民の立場から行ってきたことが特徴でした。斉藤さんのお話は、私たちが知らなかったことも多く、大変示唆にとんだ学習会でした。

憲法違反の戦争法案が成立し、具体的に自衛隊のスタンでの駆けつけ警護が始まります。戦争を知らない世代が増え、平和への関心がうすれつつあるなかで、今回の平和の学習会は、大変良かったと思います。